中学生の選挙に関する意識について

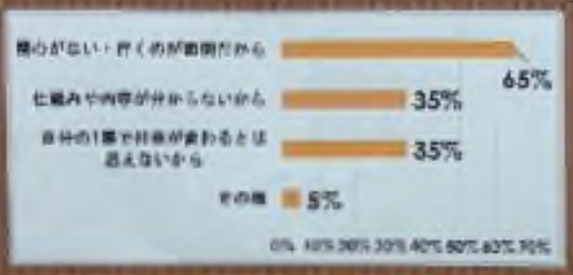
目的 中学生が選挙に対してどう思っているのかを調査することで、投票率を上げ、よりよい未来を創るきっかけにするため。

Q1 自分が18歳になり、選挙権を持ったら選挙に行きたいと思うか（%）



選挙に行きたいと思っている人は行きたくないと思っている人の約2倍いるが、行きたくないと思っている人もいる。

Q2 （Q1で行きたいと思わない を選択した人）なぜ行きたくないと思うか（複数選択）（%）



選挙に行きたくないと思う人は「関心がない・行くのが面倒」という意見が多い。

Q3 （Q1で行きたいと思わない を選択した人）子供のころ親が投票に行くのについていったことがあるか（%）



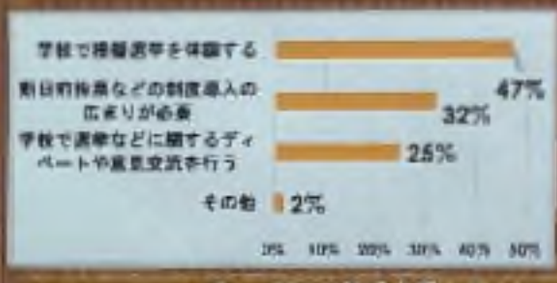
一方で選挙に行きたいと思わない人は子供の頃親が投票に行くのについていったことがない人のほうが多い。

Q3 （Q1で行きたいと思う を選択した人）子供のころ親が投票に行くのについていったことがあるか（%）



選挙に行きたいと思う人は、子供のころ親が投票に行くのについていったことがある人が多い。

Q4 中学生が将来選挙に行くためにはどのようにするべきだと思うか（複数選択）（%）



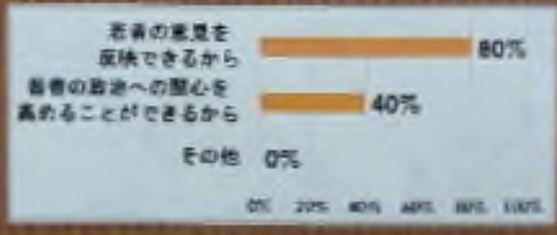
学校で選挙に対する授業をすること、制度導入の広まりが必要だということが大切だと分かる。

Q5 18歳に投票年齢が引き下げられたことに賛成か（%）



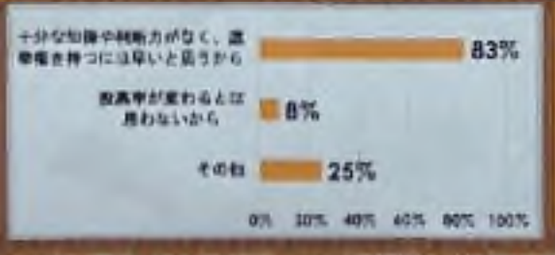
18歳に投票年齢が引き下げられたことに賛成の人が多いが、反対という人もいる。

Q6 （Q5で賛成を選んだ人）なぜ賛成か （複数選択）（%）



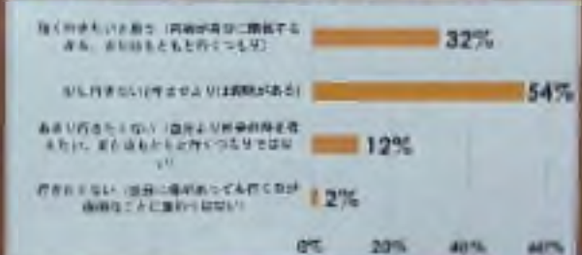
投票年齢が引き下げられることは若者の意見を反映できるというメリットがある。

Q6 （Q5で反対を選んだ人）なぜ反対か （複数選択）（%）



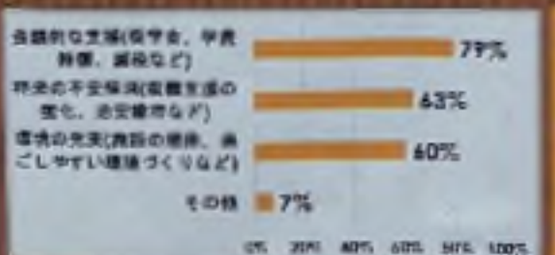
十分な知識や判断力がなく、選挙権を持つには早いからという意見が多い。

Q7 自分の生活が便利になる・得をするという具体的な公約を掲げる候補者がいた場合、投票に行く気持ちに変化はあるか（%）



自分に利益がある具体的な公約を掲げる候補者がいた場合、興味を持ち、行きたいと思う人が多い。

Q8 「票力が自分にとっての利益だ（投票に行く動機になる）」と感じるものはどれか（複数選択）（%）



金銭的な支援を望む声が多いが、将来の不安解消、環境の充実も重要であることが分かる。

考察

本調査から、若者の投票意識には「幼少期の家庭環境」と「自身へのメリット」が影響していると考えられる。投票に行きたいと思う、と答えた人の中で子供のころ親が投票に行くのについていったことがある人は9割をこえている。その一方、投票に行きたいと思わない人は子供のころ親が投票にいくのについていったことがない人が6割を超えて占め、幼少期の経験が投票への思いに差がついていることが分かる。この二つの結果から、子供に選挙の投票の様子を見させることが大切なのではないかと考えた。

また、投票に行きたくない人は「仕組みや内容が分からない」というのが一定数いたことや、Q4の質問で、学校で選挙に関する授業を行うことが学生の将来の投票率につながるという意見が多い。さらに、行きたくない理由として「関心がない・面倒」が多くあげているが、一方でQ7・Q8より自分に利益があれば「少し行きたい」という人が大幅に増えた。つまり、政治に対して完全に無関心なのではなく、「自分の生活がどう変わるか」を実感できていないだけだと考えられる。

これらのことから、学校での模擬選挙などを通した教育を進めると同時に、政治側も若者世代への具体的な利益の提示（学費無償化や就職支援など）を行い、「自分の1票には社会を変える価値がある」と感じさせることが大切なのではないかと考察した。

令和8年6月調査　東広島市立中央中学校　男女合計57人